

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：羽幌地域生物多様性保全協議会

## 事業名称1：シーバードフレンドリー(SBF)認証制度を活用した「地域事業者への支援」事業

あらすじ

海鳥を取り巻く自然環境の保全と留萌地域の産業振興の両立に向けて設計されたSBF認証制度により、環境保全に配慮した取り組みを行う事業者の課題が解決するとともに、地域住民の環境意識が向上し、環境保全に取り組む応援・関係人口が増加する。

ストーリー

海鳥を取り巻く自然環境の保全と留萌地域の産業振興の両立に向けて設計されたSBF認証制度により、環境保全に取り組む事業者の課題が解決し、地域産業の応援人口が増加することで、新しい「やりがい・いきがい」の創出や技術の導入といった産業振興が起こり、事業者が環境保全の取り組みを持続的かつ発展的に行っていく。取り組みが発展し、地域内外の人に認知が広まっていくことにより、留萌地域が海鳥・渡り鳥を通じて、生物多様性や脱炭素をリードする地域としてブランディングされ、さらに地域が持続的に発展していく。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	地域の環境保全に取り組む事業者が、地域内外の応援を受け、環境保全の取り組みを持続的・発展的に行っていく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SBF認証の対象地域が留萌地域となることで、羽幌町が主体的に支援活動を進めるロジックはどうするか</li> <li>・SBF認証で応援したい事業者像やそれに続いていきたい事業者の全体像が把握できていない業種がある</li> <li>・多様な業種がある中での支援する事業者のレベル感の統一</li> <li>・風力発電などの生物多様性保全に課題のある一方で環境保全に大きく係る事業について、認証・支援をどのようにしていくか</li> <li>・支援に係る資金の調達と恣意的な運用にならない支援方策の模索が必要</li> </ul>
②課題	環境保全に取り組む事業者が評価される仕組みがない 地域の産業基盤が脆弱で環境配慮に取り組むリソース(資金・労働力・心の余裕)がない	
③なぜこの事業をやるのか(Why)	留萌地域で環境保全に取り組む事業者が持続的に活動を続けられるようにするため。また、取り組みたい事業者が参入できるようにするため。	
④地域資源	SBF認証制度、生物多様性に配慮した地域の先駆的な事業者、管内をまたがる一次産業や観光業団体の存在	
⑤商品・サービスの具体的な内容(What)	環境にやさしい商品・サービスを認証して付加価値を付けて市場に出すとともに、被認証事業者が取り組みを継続していくための支援を行う。 支援メニュー：地域の子供たちや地域外の人との交流メニュー、安定した販路・働き手の確保、地域住民による情報発信の促進	
⑥担い手(Who)	SBF推進協議会(羽幌町を中心に、留萌振興局や地域づくり団体が構成)、生物多様性に配慮した地域の先駆的な事業者、管内をまたがる一次産業や観光業団体(北るもい漁協、るもい農協、(株)コササル)	
⑦事業で生じる循環	環境保全に取り組む事業者の課題や「やりたい」を支援することで、地域産業への関係・応援人口が増加して地域産業の「やりがい・いきがい」の創出・イノベーションが起こり、環境保全に取り組む事業者が増えていき、地域の生物多様性が確保される。	
⑧事業で生じる成果	環境配慮に取り組む事業者の課題が解決し、「やりたい」を実現することで、地域産業が進行する。地域住民の環境への意識が向上し、応援・関係人口が増えていく。留萌地域が環境保全をリードする地域としてブランディングされる。	

事業名称2：海鳥・渡り鳥を通じて行う生物多様性保全等の「留萌地域の環境・地域学習」の展開		
あらすじ		
留萌地域の小・中・高等学校で、海鳥・渡り鳥を通じて環境教育・地域教育を行うことで、地域の人々の環境意識が向上、地域の環境保全や地域産業の応援人口を増やす。		
ストーリー		
地域の子どもたちが成長段階に合わせて地域の環境や産業について学び、探求する場を設けていくことで、環境人材や地域を担う人材育成を長期的な視点で行うことができる。地域の環境保全活動や畑づくり、農業・漁業へのインターンシップ等の地域事業者との交流により、留萌地域への愛着や誇りを育み、地域の環境保全や産業振興の応援者となる。さらには留萌地域が生物多様性保全やゼロカーボン等の環境保全をリードする地域として発展していく際の担い手がそこから生まれていく。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	地域の小・中・高等学校で海鳥・渡り鳥を通じた環境・地域学習により、生物多様性の重要性や地域産業を誇りに思い、環境保全活動への参加や地域産業の応援をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>海鳥・渡り鳥を通じた環境教育を行う上で、海鳥センターで環境教育を行える人材が少ないため、留萌地域に(羽幌町の小・中学校にさえ)広げられない</li> <li>地元の文化・自然について教育を行うことのできる人材ネットワークが構築できていない</li> <li>学校教育に導入する際に、教員の負担にならないものにしていく</li> <li>野外活動や給食に係る資金の安定的な調達方法の確立</li> </ul>
②課題	管内では共有されていない生物多様性に係る地域学習、地域資源として価値が十分に理解されていない海鳥の存在、地域の子どもが農家・漁師等の地域産業に関心・興味がない、地域の事業者と地域の子どもの交流が少ない	
③なぜこの事業をやるのか(Why)	留萌地域の子どもたちが自分のくらす地域に誇りを持ち、地域で活躍する人材となるため	
④地域資源	北海道海鳥センターと羽幌高校の学習実績、生物多様性に配慮した先駆的な事業者、清掃やビオトープ保全等の地域住民の活動	
⑤商品・サービスの具体的な内容(What)	<ul style="list-style-type: none"> <li>羽幌高校の環境学習推進(クラブ活動での深い探求、天売島・焼尻島での環境学習、環境イベントへの参加)</li> <li>留萌教育局や地域団体と連携した小・中・高校ごとの地域学習パッケージの提供</li> <li>地域産業と教育機関の共同事業(長期的なインターンシップ、畑づくり、地域づくりクラブ、SBF認証食品の学校給食)</li> </ul>	
⑥担い手(Who)	SBF推進協議会、北海道海鳥センター、留萌教育局、羽幌高校、留萌地域の教育機関、地域の環境団体や地域づくり団体、地域の環境保全に取り組む事業者	
⑦事業で生じる循環	成長段階ごとに地域の生物多様性や産業の重要性を学び、交流機会を増やすことで、環境保全や地域産業振興の応援人口が増加する。	
⑧事業で生じる成果	海鳥・渡り鳥を通じて地域の自然や産業を学ぶことで、環境保全活動を行う人口が増加する。地域の自然や産業に愛着を持つことで、地域産業に係る情報発信を行う人や地域産業の担い手が増加する。留萌地域の地域資源として海鳥の価値が向上し、環境保全活動が推進する。	
		課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
		<ul style="list-style-type: none"> <li>留萌教育局</li> <li>各市町村の教育委員会</li> <li>各地域の環境団体や地域づくり団体</li> <li>羽幌町地域振興課</li> <li>地域の環境保全に取り組む事業者</li> </ul>

事業名称3：SBF認証制度を核とした「関係人口の構築」事業		
あらすじ		
地域内外の消費者等を生産者・事業者等とつなげる仕組みを作り、関係人口を増加させる。		
ストーリー		
地域内外の消費者等を生産者・事業者等とつなげる仕組みを作り、関係人口を増加させることによって、留萌地域において環境配慮に取り組む事業者を応援し、生産者・事業者が取り組みを拡大、新規に取り組む生産者・事業者が増えていく。それにより地域の自然環境、生物多様性の保全が進み、地域の生態系の象徴である海鳥の保全が進む。また、留萌地域が環境保全に積極的な地域として認知され、環境保全をリードする地域としてブランディングされる。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	地域住民や地域外の関係人口が生産者・事業者とつながり、環境配慮に取り組む事業者を応援することで、生産者・事業者が取り組みを拡大し、新規に取り組む生産者・事業者が増えていく	<p>・環境保全に取り組む生産者は個人経営の場合が多く、時間的に余裕がない場合が多い。そのため、ツアーなどの体験イベントを定期的に組む場合、受入が可能かどうか確認が必要</p> <p>・羽幌町のGCFの活用を考えているが、認証制度の制度設計の変更により対象地域を留萌地域に拡大予定のため、拡大された場合、GCFを利用可能か理事者の理解が必要</p>
②課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認証商品の購入窓口が一元化されておらず消費行動に繋がりにくい</li> <li>・地域内外の消費者に認証制度が認知されていない</li> <li>・生産者・事業者と地域内外の人の交流がない</li> <li>・認証商品の購入者、GCF等で応援してくれる人は一定数いるが、繋ぎ止める仕組みがない</li> </ul>	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	地域内外の関係人口を増やし、生産者・消費者とのつながる仕組みを作ることによって、環境に配慮した生産者・事業者が取り組みを拡大し、新規に取り組む生産者・事業者を増やすため	
④地域資源	SBF認証制度、環境に配慮した取り組みを行う生産者・事業者、認証商品	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者向けリアル・オンラインでの体験イベントの造成</li> <li>・消費行動につなげるポータルサイト</li> <li>・GCF等を活用したサポーター登録制度</li> </ul>	
⑥担い手（Who）	SBF推進協議会、（株）コササル、羽幌町観光協会、留萌観光連盟	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係人口の増加により認証商品の販売が増加→生産者・事業者の売上げが安定→取り組みが拡大される→地域の生物多様性の保全に貢献</li> <li>・GCFの仕組みを活用しサポーター制度を運用→寄付金を事業や環境保全に活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に配慮した生産者・事業者</li> <li>・羽幌町地域振興課</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	留萌地域が環境保全に積極的な地域として認知され、環境保全をリードする地域としてブランディングされる	